

交通遺児育英会機関紙

©平成17年1月1日発行
発行・財団法人交通遺児育英会
〒102- 東京都千代田区平河町2-6-1
0093 (電話) 0 3 (3 5 5 6) 0 7 7 1
(H P) http://www.kotsujiji.com

君とつばさ



関西地区に学生寮設置
朝夕2食付き、寮費3万円

新年度に募集開始、9月入寮

交通遺児育英会は、遺児臨時理事会で承認された。家庭から要望の強かった地 学生寮は、共立メンテナンス所有の学生会館を本会にメドがついたことから、関西地区にある同社の会館の中から、男女それぞれ2棟を選定し契約する。入寮できるのは、大学の学生寮「心塾」同様の施設が、関西地区奨学生にも拡大する。昨年12月1日の学生、高校での成績、出席



関西地区学生寮の候補の一つ

英国での語学研修スタート
本会に「何でも相談窓口」を開設

平成16年度上期事業報告

財団法人交通遺児育英会 規採用者は611人で、前年度の16年度上期事業報告と収支決算報告が、昨年12月1日に開かれた第5回臨時理事会で承認された。高校奨学生を英国に派遣する海外語学研修がスタートしたほか、奨学生と保護者からの相談を受け付ける専用電話を開設した。

あしながおじさんのお便り

それぞれの夢、実現させて

年改まり2005年。昨年の日本列島は、水に攻められ、地底からの揺れに震え上がりました。ことしこそは穏やかで平和な日々となりませう、祈らずにはおれません。本年もうぞよろしくお願い申し上げます。
☆ (福岡 M・Sさん) 生に聞かれました。いろいろなことに出会うのは楽しいけど、これはうれしくありません。
☆ (東京 Y・Sさん) 交通遺児の皆さん、風邪などひかないよう十分気を付けて頑張りましょう。
☆ (米子 K・Hさん) 2年前から年金生活ですが、少額になりましたが、続けたらと思っています。
☆ (北九州 K・Wさん) 昨年は大変な1年でしたが、無事に過ごすことができました。ことしもお体に気をつけて勉強、スポーツに励んでください。
☆ (鎌倉 R・Kさん) 集まりました支援金です。少額ですが、お受け取りしてください。

あしながおじさん Q&A

ご寄付には、税法上の優遇措置

「交通遺児育英会に寄付をしたのだが、寄付金に所得税や法人税の優遇措置はあるのか」とのご質問が寄せられました。本会は、内閣総理大臣、文部科学大臣の証明により、法人税、所得税の「特定公益増進法人」の扱いを受けているので、優遇措置があります。
Q: 個人の場合は、どのようにすれば所得税が減額されますか。
A: 一般の方は、確定申告の際、本会・募金課からお送りする寄付金の「領収書」提出で減額されます。「あしながおじさん」は、従来通り、年度末にお送りする「受領証明書」(年間寄付明細)で確定申告し、所得控除されます。



大空を飛翔(ひしょう)するタンチョウヅル 北海道鶴居村で、写真家田村允人氏撮影

海外語学研修2期生募集 3面

奨学生募集中

奨学生募集中

新しい年2005年の幕開けです。「限りなく降る雪何をもたらすや(西東三鬼)。年の初めに皆さまのお幸せを祈っています。奨学生の皆さんは、お正月をどのようにお過ごしでしょうか。今年こそはと、計画を立てている方も多いと思いますが、何かをやり遂げようとするとき、肝心なのは最初の一步です。ためらうことなく、一歩を踏み出しましょう。こうすれば自分にとって最善だとわかっていても、挑戦する決心がなかなかつかず、失敗を恐れて思い切った行動に移せないのが人の常です。そんなあなたに勇気を与えてくれる相田みつをさんの詩「七転八倒」を贈ります。「つまづいたりころんだりするほうが自然なんだな 人間だもの」
▼新年を迎えても友達や学校、家庭内の悩みなどで、将来の不安に心がゆらいで、何かを始めようとする気持ちになれない人もいることでしょうか。青春時代に、一度は通らなければならぬ悩ましい道です。正月を機に、心機一転過ぎたことをくよくよするのはやめにして、心の霧を晴らしましょう。今までの悩みは自分を成長させてくれる養分になるとプラス思考に切り替えて、明るい笑顔で目を前に向けよう。そして友達をつくらう。人間は一人では生きていけないから。今年も高校奨学生と保護者のつどい「や相談会、海外留学に積極的に参加して、大勢の友達をつくらう、育英会とともに、明るい未来に向けて力強く前進しよう。」

語学研修2期生を募集

今夏、高奨生25人を英国へ

カナダ、タイにも各3人派遣

交通遺児育英会は、同時に、国際的視野と感覚し夏休みに派遣する高校生を養ってもらうのが狙い。学生の海外語学研修2期生 昨年の英国に加え、カナダを募集する。ホームステイ タイのコースも新設した。しながら英語学校に通い、英国コースは7月24日出国、世界各国の青年との交流を 発、8月15日帰国の3週間、定員は25人。



海外の若者と交流する語学研修1期生

派遣先は、昨年と同じ南 部の都市ソールズベリー。 ロンドンの西約145キ ロ、中世の雰囲気が残る街 へのエクスカッション(日 帰りの旅行)もある。 新設のカナダ、タイコー スは、高校生の交換留学な どさまざまな異文化交流事 業を行っているエイ・エフ・ エス(AFS)日本協会に 委託して行う。 カナダコースは7月16日 出発、8月17日帰国。定員 は3人。プリティッシュコ ンビア、アルバータ、オ ンタリオ州などの英語圏に 派遣する。世界各国からの AFS生と一緒に午前中は 語学研修、午後は現地の祭 り見学、カナダ、ハイキン グなどの交流事業が予定さ れている。

2月末まで参加受け付け

応募資格は、健康な高校 2、3年生(現1、2年生) で、1987年4月以降に 生まれた人。カナダ、タイ コースは、英語である程度 現地の人々とコミュニケーション できること(英検3級程 度以上)が望ましい。カナ 度は、動物アレルギーがあ ればならない。 参加希望者は希望国名を 明記のうえ、「海外語学研修 海外の若者と交流する語学研修1期生

応募の動機」を作文(800 字)にして、〒102-0093 東京都千代田区平 河町2-16-1、財団法人 交通遺児育英会「語学研修 係」へ。締め切りは2月28 日。作文審査で派遣候補者 を選び、春休みに2次面接 を行って正式決定する。



地域の人たち500人が参加

心塾恒例のもちつき大会

心塾恒例の第26回もちつき大会が昨年12月5日、心塾前庭で行われた。 いまや地域のイベントになつたもちつき大会には、心待ちにしていた人たちが500人以上が詰め掛けた。 気の早い人は午前10時には姿を見せ、ちびっ子やお父さんらが代わる代わるキネを振り上げ、昔ながらのもちつきを楽しんだ。 つぎ上がったものは、いそももち、あんこもち、きな



な粉もち、ぜんざいなどに仕立てられ、さっそく舌づみ。豚汁、焼きそばも添えられて、親子やお年寄り同士でほおぼっていた。 子ども向けのイベントも盛りだくさん。的当て、ベツトボールボウリング、ス タンプラリーなどに、1日 中歓声が絶えなかった。 社会福祉施設「東京光の家」の目の不自由な人たちも招待。塾生がサポートしながら歳末の風情を味わっ

てもらった。三津山高治実行委員長をはじめとする塾生は、資源ごみの回収をして資金集め。この日は総出でホスト役を務めていた。 会場が新潟県中越地震の募金が行われ、集まった1万1,304円が新潟県災害救援ボランティア本部に贈られた。

つどい、保護者の声



◆分科会は、初めは時間 が長すぎると思いましたが、いざ本音で話している と短く感じられました。普 段だれにも話さなかったこ とを自分から話していたり して、心の重荷が取れたよ うに思います。 ◆子どもと同じ境遇に いる人たちと出会って、思 った方と話す機会がない ので、いろいろな意見が聞 け、心を開けて話せること が勇気になります。 ◆鈴木ひとみさんの講演 には、自分も同じ境遇に いる人たちがたくさんい たらいいなと思いました。 ◆子どもと二人で旅行す ることがなかったのが、初 めて二人だけで過ごす時 間が持ててよかった。 ◆皆さんのご苦労をお聞 きして大変参考になり、勇 気づけられました。自分と 重なることも多々あり、わ たし一人だけではない、み んな難局を乗り越えて強く なって行くのだなあと感じ ました。 ◆話をし、だれかに聞いて

◆主人を亡くして3年。 少し前向きに生活できるよ うになったところです。皆 さんのご家庭の深いところ の問題点を伺って、と ても勉強になりました。心 塾生の、子どもの目から見 た発言も大変ためになり ました。 ◆いろいろな方と知り合 え、とても有意義でした。 子どもはなかなか一緒に 参加してくれません。たま には親だけの愚痴大会のよ うな場も開いてくれればう れしい。 ◆心塾生から、子から見 た亡くなった父への思いと 現在一緒に暮らしている家 族に対する思いを聞き、と ても勇気づけられた。娘と 二人で暮らす時間がどれ だけあるかわからないが、時 には「頑張らない勇気」を 持つて生きてゆきたい。 ◆親子だけの時間はなか なか取りにくい。今回とて も長い時間が取れて、親子 関係を深めることができ ました。 ◆遠出する機会がないの で、ディスプレイではわたし が楽しませていただきました。 ◆日ごろは機関紙だけの 交流でしたが、育英会職員 の方々を直接知ることがで きました。母として皆さん前 向きに生きていることがわ かり、わたしも頑張ろうと 勇気と励ましをいただきました。

◆お母さんたちからいろ んな話も聞けたし、励みに なりました。 ◆自分一人で頑張らなく てはと思い込み、つらいと きもあったが、みんな同じ 悩みを抱えていることがわ かった。専務理事が「何で も相談してください」と言 ってくれ、心強かつ た。 ◆この会が金銭的なもの だけでなく、心のケアがで きるようになれば、と思 います。あのどうすることも できない悲しみや不安を話 し合えたり、相談できるの は、身近な人たちよりむしろ 全く知らない同じ悲しみ を経験した者同士のように 思います。何かわたしにで きることがあれば、参加さ せてください。 ◆自分一人で悩んでいた ことが、共感し合える人た ちと話し合えたことで気持 ちが穏やかになりました。 これから先も悩んだり、く じけそうになるかも知れま せんが、自分一人だけでは なく、共に悲しみを背負い ながらもみんな頑張ってい たいことを思い、子どもたち の成長に努力していこうと 思います。 ◆自分の悩みを他人に話 すことなんてなかった。同 じ境遇の人たちには同じよ うな悩みがあることを知っ たので、自分も前向きに生き たい。 ◆鈴木ひとみさんの講演 良かったです。

本会へ500万円寄付

東京海上と日動火災互助会

東京海上火災保険と日動 火災海上保険が合併、東京 海上日動火災保険が誕生し たのに伴い、両社の旧代理 店互助会・共済会は統合を 記念して、財団法人交通遺 児育英会にそれぞれ250 万円、計500万円を寄付 されました。 損害保険事業とかかわり の深い交通事故被害者の支 援活動をしている団体とし て本会を選ばれたもので、 9月28日に両互助会・共済 会長から本会事務局長に目 録が手渡されました。



先輩

お元気ですか

〈略歴〉
旧姓・広。63年京都市生
まれ。京都女子短大卒後、

麻雀店ママ
大学院生
石本恵津子さん

京人形製造販売会社と経営「四角いジャングル」開業。01年立命館大経営学部、コンサルタント会社で約15年のOL生活。99年夫と滋賀県草津市内にマーシャングルの店を開業。04年同大大学院経営学研究科博士前期課程に入学。

昨年10月、夢はいつか実現できる―社会人の大学・大学院への挑戦(文理圏)

という本が出版された。学校を卒業していったん社会人となりながら、どうして大学・大学院へ行きたいという夢を現実のものにした7人の共著。その一人が、夫とマーシャングルの麻雀店を開いている石本さんである。

4歳のとき父(一十三さん)を交通事故で亡くした石本さんは、母一人子一人で育った。母子さんは病弱で、もしなくなったらどうなるだろうと子ども心に心配していたとい、「小学6年のとき新聞の求人欄を見て、ここに仕事がある、と妙に安心した記憶がある」とか。

学費は奨学金でまかなえた。だから、高校2年のとき初めて自分でかせいだアルバイト料は、英会話とデニスにつき込んだ。「できることを増やしたい人間だった」と振り返る。

京都女子短大卒後、京人形製造販売会社と経営コンサルタント会社で約15年のOL生活を体験した。「離人形に囲まれて仕事する京都らしさにあこがれて入った」人形店だったし、「社会保険や労働保険の手續きに面白みを感じる」コンサル会社だった。

しかし、同僚の口から出る「ゼミ」卒論」といふ言葉に未知の世界を感じたし、「経営学が面白そうだ」とも思っていた。それが「できれば大学で経営学を学びたい」という夢にふくらんでいく。

その夢を明確に打ち出したのは28歳のとき。会社から提出を求められた「今後25年間のライフプラン」に、他の人が「自分のヨットを持つ」「別荘を買いたい」と書くのと同じように、石本さんは20年後大学卒業して、学生たちより早く経営学がわかっていて、実現するが、それが大学へ

の道のスタートだった。99年8月、マーシャングルの店を開業。草津市内にマーシャングルの店を開業すると、それまでとは立場が逆転した。使われる側から使う側へ。

「学生アルバイトとはい、仕事をしてみよう人がいる。10数人のほとんどは立命館大生。マーシャングルのママとして、学生たちより早く経営学がわかっていて、実現するが、それが大学へ

草津市の推薦試験と立命館大の試験に合格。01年4月、晴れて経営学部学生となった。38歳だった。

講義を受講してみると、期待以上。「出る授業出る授業すべてが面白い。熱意とスポーツとして楽しんで自分の力ネを使っているという意識があるうえ、社会経験があるからわかりやすい。経営学は、20歳前後で受講するより、いったん社会に出た人間が受ける方が適している」とまで言う。

もちろん18歳の学生とも年代に関係なく付き合うければ、必ずかなう。

新しい時代の食文化を担う調理師を夢見る若者たちが大勢います。かつては包丁一本で渡り歩き修業した調理師の世界も、今や専門学校で学べる調理師が主流です。

調理師の道を選んだのはなぜか。心塾から大学に通学し、部活でボウリングをやっていたが、大学生活があまり楽しくなかった。塾の専門学校に行っている先輩たちがいる姿を見て、自分の将来をどうするんだと考えた。そこで自分が将来一生懸命できるのは調理師だと思った。

「もともと料理に関心があつたのですか。」



「夢見ることを忘れないで」 OL15年、38歳から一念発起

28歳のとき描いた夢は、予期以上の展開を見せた。では、これから10年後の夢は? 「人の夢、願いをかなえる手助けができるようになっていくこと」。マーシャングルのママという立場から理想の経営にたとえて語る。

「人にプラスになることを言うってあげられるようになる。たとえばバイト生が社会に出ていくとき、ここで働いてよかったと思える環境づくり。マーシャングルの店はマーシャングルの店を売っているのではない。客が集まって交流できる場になればいい。」

マーシャングルの人口は減った。だが、団塊の世代が定年を迎えるようになれば、また目を向けるかもしれない。手先を動かすので知的スポーツとして楽しんで自分の力ネを使っているという意識があるうえ、社会経験があるからわかりやすい。経営学は、20歳前後で受講するより、いったん社会に出た人間が受ける方が適している」とまで言う。

調理師の道を選んだのはなぜか。心塾から大学に通学し、部活でボウリングをやっていたが、大学生活があまり楽しくなかった。塾の専門学校に行っている先輩たちがいる姿を見て、自分の将来をどうするんだと考えた。そこで自分が将来一生懸命できるのは調理師だと思った。

調理師の道を選んだのはなぜか。心塾から大学に通学し、部活でボウリングをやっていたが、大学生活があまり楽しくなかった。塾の専門学校に行っている先輩たちがいる姿を見て、自分の将来をどうするんだと考えた。そこで自分が将来一生懸命できるのは調理師だと思った。

調理師の道を選んだのはなぜか。心塾から大学に通学し、部活でボウリングをやっていたが、大学生活があまり楽しくなかった。塾の専門学校に行っている先輩たちがいる姿を見て、自分の将来をどうするんだと考えた。そこで自分が将来一生懸命できるのは調理師だと思った。

インタビュ

わが道



西東京調理師専門学校
1年 中嶋 祐介君
(聞き手・本紙編集長)

食後は実習で、夕方の4時20分ごろまでです。実習は約3時間ぶつ通して休憩なし、料理の出来具合で終業時間がたびたび延びます。



「西東京調理師専門学校」
田中美恵子校長。所在地は東京都小平市。専門課程には、専門調理師科(昼間部、2年制)と調理師科(同一年制)がある。ほか高等課程・調理師科と夜間部もある。



「最初は教わった包丁の研ぎ方、大根の桂(かつら)と取得できる。」



お母さんただいま奮闘中

川越市 川畑 一美さん

寒い朝、東京駅のホームは職場や学校へ急ぐ無言の人波で、ごうごうと渦を巻いている。この流れに逆行して地下鉄丸の内線で池袋へ。さらに東武東上線乗り継ぎ、約1時間で埼玉川越市に着いた。

ええ川越は、「小江戸」と呼ばれ、いまに伝わる歴史的景観は、重厚な「蔵造りの町並み」と「時の鐘」。奨学生のお母さん・川畑一美（ひとみ）さん（42）は、この町でダンスやカラオケの衣装を縫製していた。

オリジナルの衣装を望み通り縫い上げる

お母さんの職場は、川越駅から徒歩5分、通称川越に作業台。周囲の棚には色鮮やかな生地や糸、ボタン、フラスナー、紙型がぎっしり積み重ねられている。『ヘインレイツ』岡田美春社長）の2階にある。ここで、同社のダンス衣装やカラオケ衣装などオリジナル商品の縫製と、直し（修理）の仕事をしている。仕事部屋（約20平方メートル）に到着した。

「魔法の手」と称賛される鮮やかさ

11月18日午前10時。お母さんはいつものように、3人の子どもたちを笑顔で学校へ送り出して家を出た。電車と歩きで30分かけて職場に到着した。

一番にしたことは、今日の仕事の段取り再確認。お母さんは出来高払いで仕事をしているので、自由な半面、仕事の手順を自分で決めなくてはならない。一番目は、この部屋のもう一人の相方、デザインからパターンをとり、生地を裁断までしてくれる松尾弘子さんとの打ち合わせ。彼女は事務の仕事も兼ねてい



松尾さんと綿密な仕事の打ち合わせ



鮮やかにパニエを縫うお母さん



完成したパニエをハンガーに掛ける



陳列された自作のダンス衣装

本日の仕事メニューは①ダンス用の「パニエ（ダンス・スカートの下に着用）12着を縫う②コートの直し5点③スカートの丈詰め、スポンズを詰め、スカートウエスト直し、各1点。これらが順調に進めば、お客様注文のフラダンスのワンピースと、カラオケ用着物ドレスを縫製する。

ピンクのシャツに黒いボタンの花柄エプロン姿のお母さんは、ミシンの前に座りパニエの縫製に取り掛かる。赤いオーガニックの生地を両手に持ち、70センチから3センチ差で短くした生地4枚を両手で巧みにさばきながら、工業用ミシンで「ダッ、ダッ」と縫い合わせて円形にする。薄い生地が手に絡みついて思い通りにならない。そこを両手で引張ったり、送ったり加減しながらあやうようにスムーズに片づいた。「今日見事に縫う。専門家に『魔法の手』と称賛される技だ。次はすそにテグスを入れたダンス衣装を縫おう。それを見せたい。午後8時に会社を出る。外は冷たい時雨だった。お母さんは気分がいい。傘を打つ雨音を心地よく聞ける。仕上げは、縫い代にきながら駅へ急いだ。

「直し」の哀歎 ありがとうが励み

今日のように仕事が順調あり、衣装の生地素材にも違いがある。うまく体にフィットするように縫うのはなかなか難しい。ミシンの調子が悪くて糸が切れたら、縫っている最中にミシンの油のしみがついてしまったり、ヘインレイツが展開している7店舗（埼玉4、東京3）のお客さんに信頼と安心を与えている仕事に、直しがあがる。

高知県出身のお母さんは、地元の高校を卒業後、東京の縫製会社で働きながら新宿文化服装学院で学んでいた。そのころ鹿児島県出身で、近所に住む働きの川畑浩二さんと親しくなり、結婚した。

わが子らの晴れ着 縫う日を楽しみに

お母さんは、子どもたちが自立するまでもう一働きと気が張っているが、待ち望む夢がある。「娘や息子の相手手に、自分が縫ったワンピースを着せてあげたい。その幸せを迎える日もそう遠くない。



岡田社長（左端）康江専務（中央）らと楽しく

朝、仕事を始めてもななく専務の岡田康江さん（社長夫人）が、黒のカラオケドレスの直しを持って来た。豪華なドレスの背中がパニエがパニエをいいただき、一日の疲れが全部吹き飛んだ。

そのころ、職安からオランダの画家ヘインレイツの名前を社名にしたアットホームな今の会社の仕事を紹介された。「自宅で縫製」の好条件だった。しばらく自宅で働いたがその後、ダンスチームやカラオケ衣装のチームで仕事が増え、会社に仕事場を移した。

岡田社長・専務夫妻の明るくて温かい人柄に触れ、同じ部屋で若くてセンスのいい松尾さんとも一緒に働くようになり、悔しい記憶は少しずつ薄れていった。

あの日から5年の月日が流れ、中学生と小学生だった子どもたちはそれぞれ成長した。長男浩平君（19）は大学生、長女恵さん（18）はまもなく高校を卒業する。二男直人君（15）も今春高校に進学する。

お母さんは、子どもたちが自立するまでもう一働きと気が張っているが、待ち望む夢がある。「娘や息子の相手手に、自分が縫ったワンピースを着せてあげたい。その幸せを迎える日もそう遠くない。

奨学生のコーナー

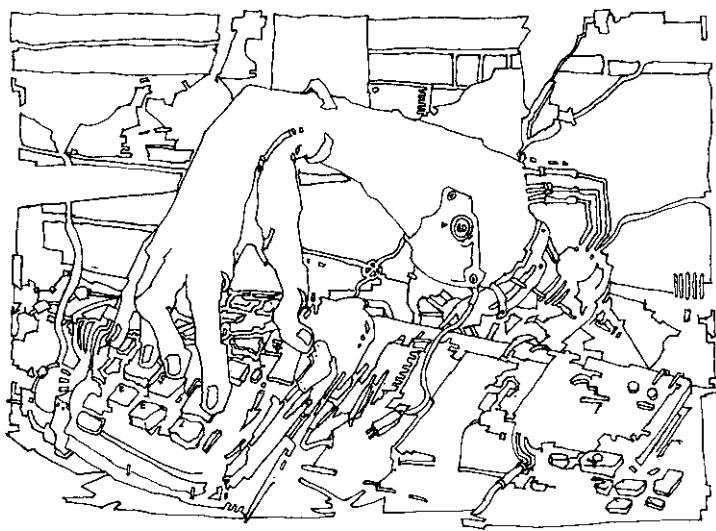


イラスト 創形美術学校3年 三橋綾子さんの作品

愛知県立一宮北高校2年 長尾 圭一

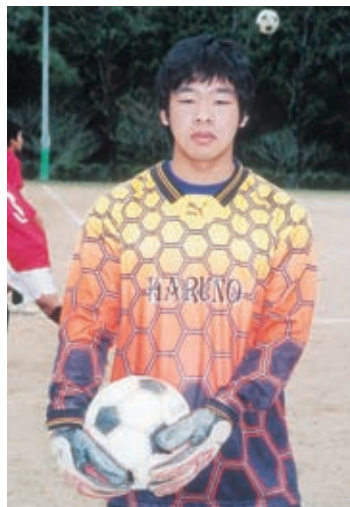
僕は将来、ゲームプログラマーになりたいです。ゲームプログラマーになるためには、パソコンの資格を取る必要があるのだけど、家にはパソコンがないので、取るのは難しいと思います。

ゲームプロ

グラマーが夢

大学は情報処理の学科に入って、パソコンの資格を取りやすくしたいです。ゲームプログラマーになったら、たくさんゲームを作って、人気商品をたくさん作っていいです。

燃える青春



豊かな自然に恵まれ、天びいていた。10月28日(木)午後4時の春野町で、「立志力行師半。授業を終えた西野慧キヤプテンら選手15人と女子マネジャー(一人)が校舎北西のサッカー場のフィールドに集合した。

小粥監督が早、練習が始まるころには太陽が沈み、眼前に迫る山々にはあかね雲が...

監督が観客席の5段目の位置に立ち、戦況を見守りながら攻撃側の選手に指示を送る。「OKOK、抜ける抜ける」「もっと開いていけ」「開ったボールを取りに行け」「オフサイドになるぞ、ちゃんと見ろ」

「タイミンクよく狙って、自信を持ってシュートを打て」「セットプレーはいいよ。攻守とも選手の数が少ない分、当たりが激しく迫りがある。観戦していたOBの山崎豪也さん(磐田消防署員)の声も飛ぶ。



中根 晃(元実践女子大学教授)



近いうちに文化祭があるとのこと、集会所では何人かの婦人が琴や三味線の練習をしていた。比較的若い方の中には自分の仕事で週に何回かは外に出ているとのことだった。構内に植えられた樹木もすっかり成長して緑のドームで静寂を

安心と生甲斐

友人が一度見に来いと言ったので東京近郊のケアマンションを案内して貰った。構内のレストランで高齢者向きの献立の給食があり、いざとなれば介護サービスも受けられるという安心が売り物のマンションで、自分の子どもに余分な負担をかけずに老後を過ごすことが出来る仕組みである。居住者の代表委員を引き受けている友人は管理事務所との連絡調整をする関係で、すれ違う居住者から気軽に声を掛けられていた。

シリーズ

心の病気

(33)

こうした安住ほどの高齢者を中心に役員は高齢者のスポーツでみんな楽しんで企画をしたり、社会奉仕

定年退職後に家庭菜園を借りて野菜づくりに精を出す高齢者も多い。最近では盆栽とか手芸などの仲間が展示会を開く場も提供されるようになったが、手づくりの野菜で市を開くとか、収穫祭を催す発想も欲しい。また、市の行政に率直な意見を言う場が作られることで、まだまだ社会から求められることを実感

習に移った。短いパス、シユート、センタリシユートと次々にこなす。暗さが増し、6基の照明灯が点灯された。練習のクライマックスは、15人の部員が攻撃と守備に分かれての実戦練習。試合を意識した練習に、部員の表情がぐっと引き締まる。

「気をつけ礼、ありがとうごさいました。さよなら」練習が終わった。庭訪問で、芦川副顧問が練習の指揮をとった。前日とほぼ同じ内容の練習メニューをこなし、午後7時終了

小粥監督が「来週の水曜日の試合に、今日のゲームが生かせるよう頑張れよう」と締めくくった。このチームの守護神・和田君は、164センチ、がっちりした体に気迫をみなぎらせてゴールを死守した。彼は、小2のとき母親が車の事故で亡くなり、父の手で兄とともに丈夫に育てられた。小さいときから、ゴン中山、名波、服部など郷里の名選手にあこがれていたが、中学にはサッカー部がなく、高校で入部したときは本当にうれしかったという。



OB組のシュートを体を張って防ぐ和田選手



小粥監督(後列右端と)春野高イレブン

30日(土)はOBとの練習試合の日。雨で先輩たちの集まりが悪かったため、現役組(レギュラー)対OB組(OB5・選手3・副顧問1)で、20分のミニゲームを3回やることに決定。それぞれ9人で戦うことになった。午前10時40分、レフェリー・小粥監督の笛で1ゲームが始まった。

部活動拜見

サッカー部員

静岡県立春野高校2年

和田 英希君(16)

小粥監督の指導方針は「サッカーを通して人との付き合い、礼儀作法を学ぶ、勝敗よりも内容を大事にする」と。29日(金)は、監督の家族訪問で、芦川副顧問が練習の指揮をとった。前日とほぼ同じ内容の練習メニューをこなし、午後7時終了



シュート練習でゴールを死守する和田選手

現役組西野キャプテンのフリーキックがコーナー右隅に鮮やかに決まり流れが一変、3分間隔で3、4点を挙げ、終了間際には5点目を奪って同点に追いついた。12時、ゴールコンゴ方式で延長戦開始。OB組は開始早々、立て続けに強烈なシュートを放つが、GK和田英希君の体を張った好セーブなどで得点ならず。逆襲に転じた現役組が12時06分決勝ゴール。雨の中の熱戦を制した。「うわー」と喜びの声を挙げる現役組。「くやしいなー」とつぶやく先輩たち。胸が熱くなる素晴らしいゲームだった。